

## 令和4年度 事務職員研修復講

熊本県立宇土高等学校 事務主査 後藤理恵

### ○研修日程

- 1 期 日 令和4年11月18日(金)
- 2 場所等 ホテルポートプラザちば参集 26名  
オンライン(Zoom)参加 40名 合計 66名
- 3 趣 旨 近年、飛躍的に進歩しているAIやロボット技術により、私たちの仕事も業務の効率化やDXが期待されている。研修においてAIやロボットの基礎知識を学び、その特性を知ること、ヒトでなければできない仕事とは何か、令和の事務職員はどのように変わっていくべきかを考える。

### ○研修内容

- 1 講義「AIとの共存」～20年後に残る仕事になるために～  
講師 教育研究家 一般社団法人ライフ&ワーク代表理事 妹尾昌俊 氏

今の小中学生が就職する10～20年後には、今のしごとのかなりは、なくなっているか、あるいは大きく変容している可能性がある。

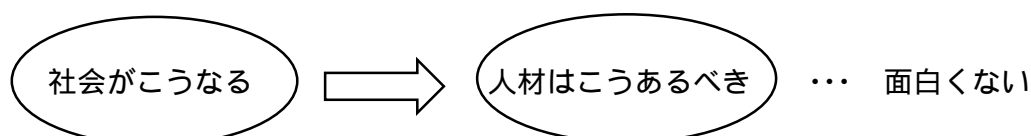
日本の労働人口の約49%が就いている職業において、人工知能やロボット等により代替可能性が高い。(オックスフォード大学マイケルA・オズボーン准教授らと野村総合研究所との共同研究による。2015年。)

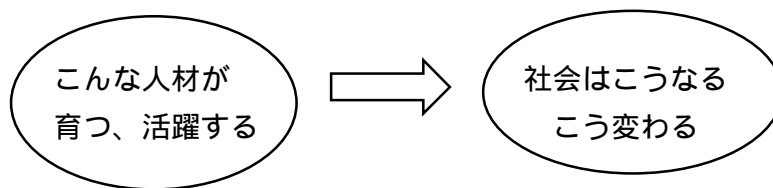
抽象的な概念を整理・創出するための知識が要求される職業、他者との協調や他者の理解、説得、ネゴシエーション、サービス志向性が求められる職業は、人工知能等での代替は難しい傾向にある。

雇用主が今後重要と見なすスキルとしては、問題解決、創造性、アクティブラーニングなど(世界経済フォーラム「The Future of Jobs Report 2020」)

21世紀を生き抜く子どもたちに必要な資質・能力とは？  
必要になる教育のあり方は？

どちらの方向から見る？





自分はどうかありたい？

事務職員として、理想と現実との間には壁やギャップがあるかもしれない。現実には、多くの教職員が忙しいし、なかなか改善を進めたり、新しいことにチャレンジする余裕もなくなっている。

同時に、社会は大きく変わろうとしている。このままでは学校は置いてきぼりになるか、あるいは、次々と社会の要請に受身的に対応することになる。

本当にこのままでいいのだろうか？

今日から必要なことは、小難しい用語や概念ではない。ポイントを押さえたうえで、ちょっとしたことからでも実行していくこと。

「そもそもなんのため？」という問いが大事。前提としている価値を疑う。

チームで大切にしたいこと『目的と志』

おかしいな、めんどくさいな、ストレスだな～と思う業務は改善の宝庫。教委などと連携して問題解決を。一校だけで頑張りすぎない。多くは共通問題。

これまでのやり方や常識を疑おう。その作業、「仕事ごっこ」では？

改めて学校事務職員の今日的な役割とは？

## 2 グループ討議

講師 教育研究家 一般社団法人ライフ＆ワーク代表理事 妹尾昌俊 氏

テーマ : 学校事務職員と業務改善

事務職員の仕事として、減らしたいことや業務改善できること

テーマ : 自分自身を見つめよう

- ・ どうして事務職員になったのか、どうして続けているのか
- ・ 10年後、20年後にどのような仕事がしたいのか
- ・ どうすればそれに近づけるか

## 3 講評

### ○文部科学省講話

演題 最近の初等中等教育の動向と学校における働き方改革について

講師 文部科学省初等中等教育局財務課 校務改善専門官 菅谷 匠 氏